

毎月踏査登山をしています！



相州アルプスの南尾根 (荻野高取山・華厳山・経ヶ岳)

荻野西山登山マップ

2019.10改訂

西山を守る会

事務局：荻田 豊 ☎046-241-8990

〒243-0201 厚木市上荻野2279-1

<http://nishiyamawomamorukai.web.fc2.com/>



▲点線は採石事業終了後の後線(推測)

花だより

ミツマタ桃源郷(大平登山口)

3月上旬～3月下旬

ヒオウギお花見会

7月最終日曜日(沓掛館山)

※相州アルプスとは厚木市上荻野と愛川町半原の二つの高取山にはまられた華厳山・経ヶ岳・草籠石山・仏果山の山々のことで、当会で名付けました。また、西山とは荻野の里から見て西側に見える高取山・華厳山・経ヶ岳の三山の総称です。

※西山三山への登山は、大沢と大平の登山口をお薦めします。ほかのルートには道はほとんどありません。

※バスは小田急本厚木駅北口1番線半原行きをご利用ください。

★大平登山口から上飯山や三つ沢に抜ける市道(778・779)は、後線市道(発句石・上飯山分岐間)などを廃止して山裾に付け替えた市道ですが、整備されていません。また、法華林道に通じる市道(776)も同様に整備されていません。ご注意ください。

▲厚木市道は尾根道で、整備されていません。地形図を参照しながら歩いてください。初めて歩かれる方は当会の月例登山に参加することをお薦めします。

♥水源の森林づくり整備事業の作業径路がありますが、損壊している所もあり危険です。基本的に使わないでください。

※この地図は略図です。

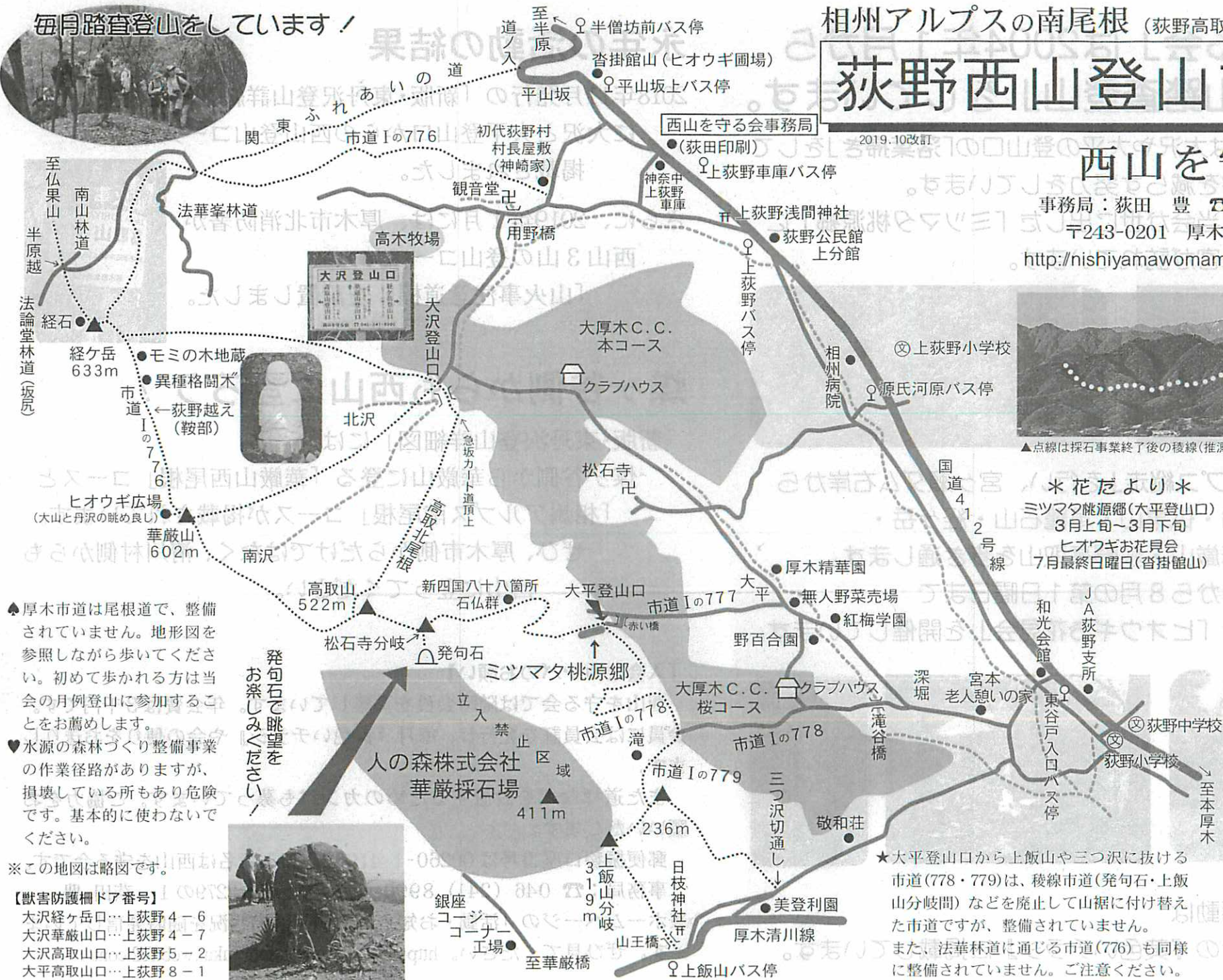
【獣害防護柵ドア番号】

大沢経ヶ岳口…上荻野4-6

大沢華厳山口…上荻野4-7

大沢高取山口…上荻野5-2

大平高取山口…上荻野8-1



『こういう会』10月例会のご案内

おもしろい信仰……お話 大塚 博 夫さん(半原在住)

今回は半原の大塚博夫さん(相模民俗学会理事・県史談会副会長)に、性信仰にまつわる楽しい話をさせて頂きます。

会場は今夏開設されたばかりの鳶尾の老

人憩いの家(児童館併設)です。

会員以外の方も若干名参加出来ます。ご希望の方は事務局までお申し込み下さい。

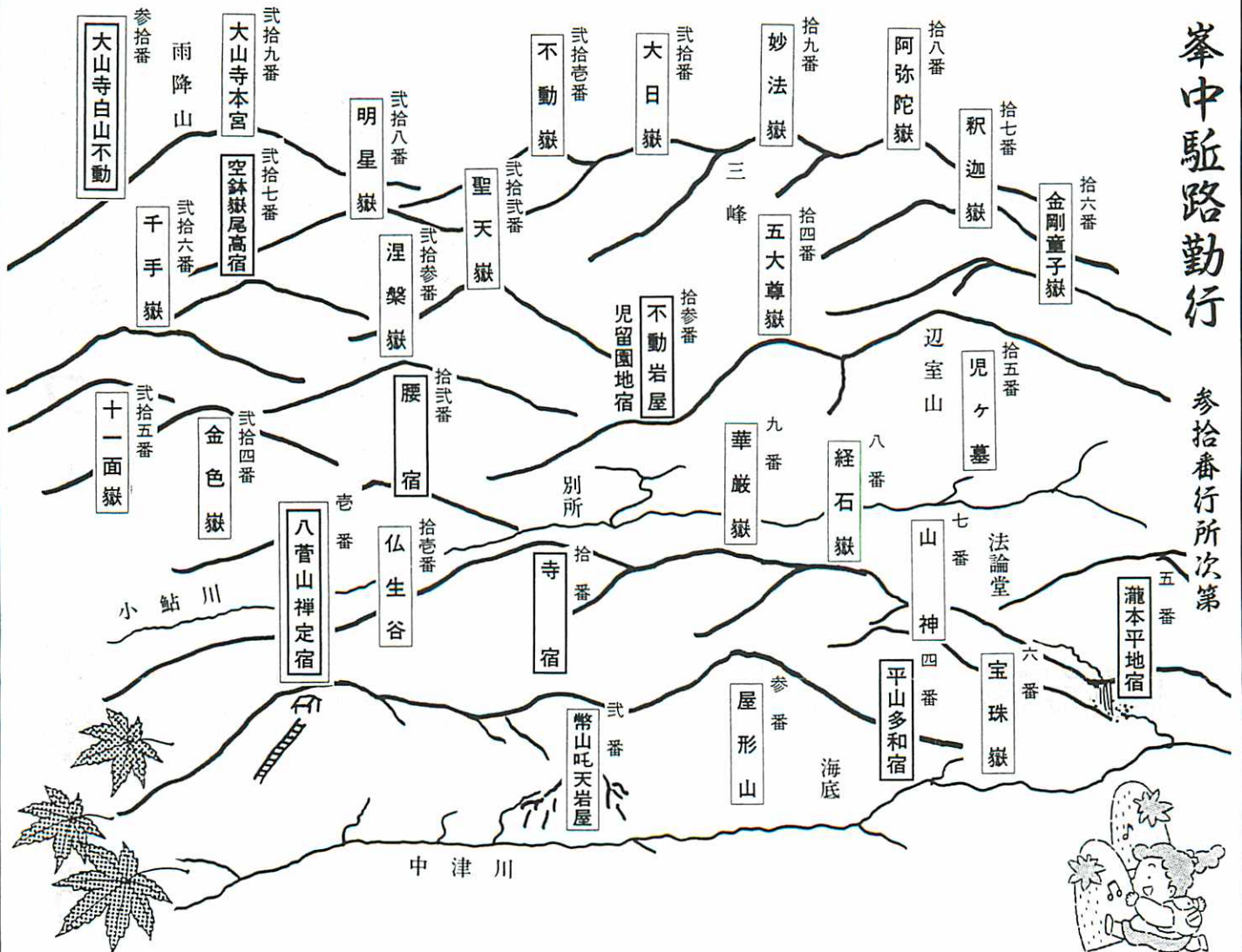
1. 日 時 10月20日(日)午後1時30分より

1. 会 場 鳶尾老人憩いの家

(スルガ銀行鳶尾支店前)

1. 問合せ 『こういう会』事務局

☎41-8990 荻田まで



Arai-san Hiking Route

Arai-san Hiking Route

デンワ

◆自宅と仕事場が一緒の私どもには、お客様以外からの二つのタイプの電話がよくかかってきます。一つは「社長さんいらっしゃいますか」で、もう一つは「奥さま」あてのもの。

◆子どもの頃、私はおやじの用事で度々三増まで自転車を使いまして。それは、草葺屋根屋だった父の伝言を仲間の職人さんに伝えることでした。有線が普及するまでこの役は続きました。◆近頃はファックスが普及し、これは私どもの商売には大変便利で、原稿のやり取りに重宝しています。その上、ファックスは発信者の名前と番号が表示されるので、いたずらされる心配がありません。◆昨年末は「社長さんいらっしゃいますか」の電話に閉口しました。投資向けマンション物件の案内など、各種の投資勧誘電話が日に三、四本、多い日は七、八本もあり、これに「奥さま」あての学習教材の勧誘電話がプラスされ、仕事の電話量よりも多くなる日が続きました。◆女房が外回りしている時に、機械を操作したり、暗室に入ったり、神経を集中して細かい仕事をしていると、電話に出にくくなります。なぜかこういう時に限ってこの手の電話がかかってきます。何度断わってもまたかかってくる電話もあります。こんな時、受信したくない相手からの再度の電話は、かからないような装置があったらと、つくづく思います。◆ここまで書いてみると、突然電話が鳴り出しました。受話器を取ると「お宅に中一のお子さんが…」

黄色いチラシ

平成3年10月1日号 No131

荻田印刷 TEL FAX 41-8990

1981年創刊 毎月1日2万部新聞折込
編集発行人：荻田 豊 上荻野車庫前

カレンダーお早目に
荻田印刷 ☎41-8990

修験入峰コースを歩こう

私が所属する上荻野丸打自治会青少年健全育成会で、今月末に八菅山にハイキングに行きます。八菅神社周辺は、展望台やアスレチックなど整備されていて、子どもたちには恰好な遊び場になっています。

この八菅山は明治以前、八菅修験の入峰出発地でした。今回は、八菅修験の入峰コースを調べてみました。

★修験道とは
修験道とは、日本古来の山岳信仰を中核として、陰陽道・神道・仏教など多様な宗教の教理を導入して成立した、神仏混交の山岳修行を主体とする実践的な宗教であり、修験者は半僧半俗で、加持祈祷を中心とした宗教活動を営み、神仏の世界と人間の世界、即ち、「聖」と「俗」とを媒介する機能を果たしていました。

今回の資料は、鈴木正崇著「空間構成論―修験集落八菅山を中心として―」（民族学研究四十三巻三号別冊）で、中津の足立原晴男さんに提供して頂きました。

全体の修行の流れは東北（長・うしろら、鬼門）から西南（坤・ひつじさる、裏鬼門）へと指向しています。東北から西南へ、山↓谷↓山↓谷↓山と向うにつれて、山は一層高く、谷も一層深くなり、大山に至ってその高みの頂点に達します。

★入峰

入峰は二月二十日、二十一日の例祭の後に行われました。入峰日数は、弘治三年（一五五七）までは四十九日で、その後三十五日になったそうです。

この四十九日は、仏教で衆生が死んで次の生を受けるまでの期間とされる「中有」にあたり、西方浄土親に支えられていた西方空間を他界と見なして、擬死再生の修行をしていたことが推測されます。入峰の行所は、八菅山の西方空間（西北―西南）にはほぼ包含され、

- ★行所
（裏面・峰中駈路勤行図参照）
- ① 禪定宿
 - ② 幣山
 - ③ 館山（屋形山）
 - ④ 多和宿（平山）
 - ⑤ 平地宿（塩川）
 - ⑥ 宝珠嶽
 - ⑦ 山神
 - ⑧ 経石嶽
 - ⑨ 華嚴嶽
 - ⑩ 寺の宿（華嚴山中）
 - ⑪ 仏生谷
 - ⑫ 越の宿（腰宿）
 - ⑬ 児留園地宿（不動宿）

喪中はがき

本年中に不幸のあった方は年賀欠礼ハガキを出しましょう。
年末は何かと忙しいものです。今から準備したものです。

荻田印刷 ☎41-8990

- ⑭ 五大尊嶽
- ⑮ 児ヶ墓
- ⑯ 金剛童子嶽
- ⑰ 釈迦嶽
- ⑱ 阿弥陀嶽
- ⑲ 妙法嶽
- ⑳ 大日嶽
- ㉑ 不動嶽
- ㉒ 聖天嶽
- ㉓ 涅槃嶽
- ㉔ 金色嶽
- ㉕ 十一面嶽
- ㉖ 千手嶽
- ㉗ 尾高宿（空鉢嶽）
- ㉘ 明星嶽
- ㉙ 雨降山（大山寺本宮）
- ㉚ 白山不動

行所は以上三十ヶ所七宿でした。最初の二十一日間は禪定宿（八菅山）で修業、その後各宿二日間の日程で、三十五日間修行をしました。

初めて参加した者は、禪定宿から幣山までは目かくしをして歩く慣わしだったそうです。

今では、寺の宿は採石のため山容が変わってしまい、また仏生谷もどこであるかは確認されていません。その他は、一九七七年

にかけて、研究者によって踏査確認済みです。しかし、行所の確認は出来ていますが、行所と行所の間は、どこを通ったかは不明です。

★往時を偲ぶ火渡りの修法

明治初年、明治新政府による神仏分離の政策によって、修験は法度となったため、八菅の修験組織は解体され、修験者らは、ほとんど帰農してしまいました。

今では、毎年三月二十八日の八菅山例大祭の「火渡りの修法」にそのおもかげをとどめるのみです。



★あなたも霊能者になれるかな!?
行所第二十五番付近から、八菅修験は日向薬師の修験と同じ入峰道を辿っていることは明らかになっています。

厚木商工観光課発行の「厚木のハイキングガイド」の白山順礼峠、鐘ヶ嶽、日向薬師の各コースなどを参考にしながら、あなたの推理で八菅修験の入峰行所の全踏破に挑戦してみませんか。

もっとも、現在の整備されたハイキングコースでは、「験（霊力）」を獲得することは無理だとは思いますが……。



八菅修験行所第10番寺宿か

日本山岳会神奈川支部の古道調査に同行したときに調査員からいただいた資料を読み、これまでその場所が特定できていなかった第10番行所の「寺宿」は、西山を守る会で毎年3月に訪れる滝谷の滝ではないかと思うようになりました。

☆古道調査に協力

先月号で、12月13日(月)に日本山岳会神奈川支部の古道調査に同行したことを報告しました。

その際、同支部の調査員にいただいた資料は、昭和53年に発行された『修験集落八菅山』(慶應義塾大学教授 宮家準編)のコピーでした。

八菅修験は丹沢山塊の東側、八菅山を起点にして大山に至る七宿30ヶ所をめぐる峰入修業をおこなっていました。

資料は、このうちの今回現地踏査をする、6番宝珠嶽、7番山神、8番経石嶽、9番華厳嶽、10番寺宿が記載されたページでした。

☆第6番宝珠嶽

調査員の3名とは半僧坊バス停で待ち合わせ、道ノ入から登山を始め、まず宝珠嶽を目指しました。

資料は、

滝本から、経ヶ岳へ向って直登していくと半円形のなだらかな格好をした海拔五三七米の峰に達する。これが宝珠嶽で、通称「ぼうず山」といわれている。そこから、塩川滝へも、平山へも、経ヶ岳へも道が通じている。―と大変明解な説明ですので、この場所はずぐに特定できました。何と宝珠嶽は愛川町と厚木市の行政境尾根筋の最上部だったのです。



☆第7番山神

山神の資料には、―『風土記稿』には「華厳山の中に宝珠嶽山神と唱ふるところあり」と記されている。宝珠嶽と経石嶽の間に行所があったものと思われる。―

―とあり、位置は特定されていません。そこで、この資料を基にそれらしいところを探しました。

その結果、平地の広さや位置から判断して宝珠嶽と経ヶ岳山頂と

の中間にある休憩場(テーブルとベンチあり)のあるところがふさわしいということになりました。

☆第8番経石嶽と第9番華厳嶽

第8番のそれには、

―経ヶ岳(海拔六三三米)山頂に至る西峰に一边五米ほどの巨石があり、経石と呼ばれている。これは役行者が華厳経をおさめた石櫃であるとの伝説があり、名前の由来ともなっている。(麓の松石寺より弘法太子が来て経文を納めたという伝説もある)。また、子種石という石があり、この石に蚕の豊作を祈ったという。―

―とあり、また第9番は、―経ヶ岳を尾根伝いに南東に行くと海拔六〇二米の華厳山山頂に着く。山頂が九番の行所である。華厳山はこの山だけではなく、一般には八菅山の西面一帯が華厳山と呼ばれていたようである。―とあり、どちらも位置は特定されていますので、現地確認をするだけでした。

その後、高取山の山頂まで行きましたが、第10番寺宿は分からないということ、ここで寺鐘橋に下る調査員と分れました。

☆第10番寺宿

帰宅後、高取山中にあったと言われる第10番寺宿の資料を改めて読んでみました。

―華厳山から、さらに尾根を下すると海拔五二二米の高取山に着く。尾根上に「この山やこのうぐいすに人もいず」との句碑がある。行所の詳しい位置は確定できないが水場があり、この山に滝洞

寺という寺があったと伝えられている。ここが寺の宿である。―これを読んで、なあんんだ、毎年3月例会のときに行っている滝谷の滝(左写真)だと思いました。

理由は、滝洞寺という寺の名の「滝と洞」は正に滝谷の滝の佇まいそのものなのです。

資料出展の『修験集落八菅山』

は、この調査に参加した愛川町文化財保護委員の福井周道さん・足立原晴男さん・大塚博夫さんらに40年近くも前にいただき、幾度となく読んでいたのですが、うかつでした。経石嶽も華厳嶽もそれぞれの山頂なので、寺宿も高取山の山頂だと思い込んでいたのです。次の第11番仏生谷の資料には、―山を下ると舟沢部落がある。蓮久寺(日蓮宗)裏に明神沢という沢があり、山神の祠がある。行

所の跡と考えられている。―とありますので、高取山頂から蓮久寺の間と範囲を広く考えればよかったのです。

また、「山を下ると舟沢部落がある」は、高取山以南の現在削られている稜線尾根道(廃止された市道1705)を上飯山の尾台に下るルートと推察されます。

☆願望も含め

正月に滝谷の滝の源流や周辺を踏査する予定でしたが、体調不良のため実施できず、今回中途半端な記事になってしまいました。今後調査ができたときに改めて記事にしたいと思っています。



ミツマタ桃源郷の10年間

「西山を守る会」は大平登山口の三極の群生地を「ミツマタ桃源郷」と名付けて会の活動目的である「西山に登山者を呼び込む」ために役立ててきました。その狙いが当たり、花時には関東一円から多くの登山者がやって来るようになりました。

☆誕生は

西山を守る会（以下会）の平成19年（2007）7月例会は台風のために1日延期し、大沢から華厳山に登り、高取山、発句石と回り、松石寺尾根（市道1776）を大平に下りました。

獣害防護柵ドアを開けて外に出るとゴルフ場の従業員がグリーン（今は使われていない）上で作業をしていました。

大平登山口の左右には沢があり、北側の沢には赤い橋が架かっており、南側の沢は外周道路があるために土管になっています。その土管に台風による山からの土砂が詰まり、泥土が道路を乗り越えてグリーンに押し寄せたのです。

その半年後、稜線を削っている採石業者は沢の上流に堰堤を造りました。その際工事用の重機を通すために沢沿いの杉林を約150メートル切り開いて広い道を作ったのです。

☆「ミツマタ桃源郷」と命名

工事から5年後の平成25年（2013）3月例会は三つ沢切り通しから山に入り、付替え市道1779と778を通り大平に抜けました。

かぐわしい香りが登山口に着く前から漂ってきました。

何と、昔山口満さんが小田原の造幣局に出荷しようと植えた三極

の子孫が杉林にひっそりと生き続け、堰堤工事のお陰で日当たりが良くなり、数年で数を増やしていたのです。

そこで、相州アルプスの名付け親でもある当紙は、三極の愛らしい花と芳香、沢の水音、登山道に咲く蕨、鶯の鳴き声などから「ミツマタ桃源郷」と名付けました。もちろん、山削りの地獄との対比も込めて。

そして直ぐに新聞社に情報提供したところ読売新聞が記事にしてくれました。

☆ジャケツイバラと格闘

所属する自治会の会長にも連絡し、荻野地区で村おこしの一環として管理することを提案しました。しかし一向に進展しませんでした。

そこで翌年から会で整備を始め、近年は毎年2月に行っています。

始めたころ、当時はまだ70代だった佐藤会員や坪井会員が三極に絡まる棘の鋭いジャケツイバラを切り除いてくれました。その甲斐があり、見栄えが良くなり、安全に歩けるようになりました。

木は年々大きくなり令和2年が最高で、昨年あたりから寿命なのか大きい木が枯れだし、また花時に小さな黒い虫もつくようになりました。そのため今年は整備に数日かかりました。

☆観光名所に

平成28年（2016）にはクラブツーリズムがツアーを組んでやって来ました。無人野菜売り場前に観光バスを置き、そこから桃源郷までの案内がしました。一行はその後、昼食の旭町「厚木たちばな」に向い、午後は二宮吾妻山の菜の花、大和常泉寺の三極と巡りました。ほかにテレビ局から情報番組で取り上げる話もありましたがこれは混雑すると地元で迷惑が掛かるので断りました。

「ミツマタ桃源郷」は今ではグルマップにも載っていますし、インターネットで検索すればたくさん記事を見ることが出来ます。



☆会員の手芸品

会では平成16年（2004）8月例会のときに高取山頂でヒオウギの花を見つけ、会のシンボルフラワーにしました。

この例会が初参加だった我妻会員はその後のこの花を模したアクリルたわしを編んで会に提供してくれ、会ではこれを販売して活動資金の足しにしています。

その彼女は三極が見つかる今

度はこの花を模したバッチを編んでくれました。これは桃源郷来場記念にと毎年花時に場内で無人販売しています。

手芸バッチはその後蕨や葉っぱなどもつくられ、そして今年にはウクライナ国旗ができました。

また、来場者にヒオウギの種を配布した年もありました。

☆ナンバープレートが楽しみ

花時は平日でも大平登山口の獣害防護柵ドア内の広場には多くの車が停まります。早朝からある車のほとんどは登山者です。

圏央道の開通後は遠方から見える車が多くなり、今年は足立・品川・世田谷などの都内や横浜はもちろん、大宮・熊谷・川越・とちぎ・柏・つくば・野田・長野などのナンバーも見られました。

☆登山者との交流

毎年来場者の多い日は、楠田会員が現地案内係をしてくれました。私は昨年3月中旬の土日に、軽トラの荷台を利用して会員手づくり品を販売しています。これは活動資金の確保もありますが、登山者との交流が主目的です。今年はお彼岸の3連休に行い、多くの登山者と話ができた、つぎのような情報を得ました。

早朝から停めてある車の登山者は昼過ぎに下山して来る人が多かったです。遠方に帰るので早めに下山しているようでした。

一方、愛川ふれあいの村・半僧坊・上村橋仏果山登山口・土山峠などから入山する人たちは15時頃に下山して来ました。

また、立入禁止の看板とトラロープに躊躇して発句石広場には入らない方が多くいました。厚木市の文化財に準ずる発句石や絶景ポイントと自然破壊の現場を見逃したのには残念なことです。これは、市道1777の竹藪前のでこぼこ道同様、怠慢行政の被害者です。最後に終盤に出会った登山者4組を紹介します。

①青年3名のグループ
半僧坊から経ヶ岳・華厳山・高取山と回って大平に下りて来、標高の割りにはきつい山だったと言っていました。

孫のような3名に桃源郷誕生の話をして、「不遇の時代があっても、耐えていればいつか陽の当たるときが来るかも」と人生訓を。

②女性6名男性1名のグループ
上村橋仏果山登山口から入ったという千葉・埼玉・東京の面々、16時過ぎに下りて来て、さらにこれから玉子サンド研究所に行くこと。

このテレビ朝日の「ナニコレ珍百景」に取り上げられた無人販売所までは30分くらい歩きますが、源氏河原と泉のどちらのバス停にも近いのでこの選択は正解です。

③千葉の単同行の女性
八街市から一人で電車とバスを乗り継いで来、会のブログを読んだり、到着するなりウクライナ国旗バッチを買ってくれました。愛川ふれあいの村に下りると言っていました。

④不動尻とハシゴの女性
不動尻の三極を見て、寺鐘橋から華厳山の急登を登ったと話す女性、前の週はこの逆を歩いたと健脚です。

☆新たな発見
今年の出世の際に広場にある大きな石にカネハラニシキガイの化石を見つけた。

「地元にあるものを活かして遊ぶ」また一つ売り物が見つかりました。



▲用田神社・荻野四郎忠義居蹟
(厚木国際ゴルフカントリー倶楽部内)

荻野四郎忠義と陸奥六郎義隆

「荻野」にとって
大切な場所 ②

☆「保元の乱」と「保元物語」
荻野四郎忠義が『保元物語』に
どのように記載されているのかを
見る前に、NHK大河ドラマ「平
清盛」を思い出しながら、「保元
の乱」をおさらいしましょう。

この乱は、保元元年(一一五六)
に京都に起こった皇室および摂関
家内部の争いで、崇徳上皇の皇位
継承に関する不満に、藤原氏内部
の頼長と忠通との摂関争いが結び
ついて、鳥羽上皇の死を機として
崇徳上皇側の頼長は源為義・平忠
正を招き、後白河天皇側の忠通は
源義朝・平清盛と結んで激突し、
天皇側が勝ち、上皇は讃岐に配流、
頼長は戦死、為義・忠正らは斬
首されました。この事件は、武士
の勢力が大きくなると占めた反面、
古い貴族の無力化を示し、武家政
権成立の契機となりました。

次に『保元物語』ですが、三巻
からなる軍記もので、著者不明で
成立は承久(一一九一)ごろ
と推定され、源為朝を中心に保元
の乱のありさまを和漢混交文によ
って描かれています。

☆諸本が
そこです。『保元物語』を讀ん
でみようと思ひ、図書館に行き、
冊借りてきました。しかしそのど
ちらにも、肝心な荻野四郎忠義の
名前が見えません。

調べてみると、『保元物語』には、
数多くの伝本が、写本や版本の形
で残されており、これらの伝本を
比較すると大小様々な相違がある
ことが分かりました。そのため翌
日また図書館に行き、荻野四郎忠
義の名前が載る三冊を借りてきま
した。

☆義朝の麾下として
荻野四郎忠義の名前が『保元物
語』に載るのは上巻の最終章です。
その一部を加藤中道館発行の『保
元物語・平治物語』より抜粋しま
す。

十一日の寅の刻に官軍既に院
の御所へ押寄す。折節東国より軍
勢上り合ひて義朝にあひ従ふ兵多
かりけり。(中略)相模には大庭
平太景能・同三郎景親・山内須藤
刑部承俊通・子息滝口俊綱・海老
名の源八季定・秦野二郎延景・荻
野四郎忠義(以下略)――
とあり、荻野四郎忠義は源頼朝の
父親の義朝の配下として京に昇つ
たことが分かりました。

中世通史編」を転載します。

――保元の乱の戦功第一の義朝に
対する朝廷の処遇は、あまり戦功
の無かつた清盛より低いものであ
つた。さらに清盛は後白河上皇の
信任厚い藤原通憲(信西)に接近し
て、その政治的地位の向上を図つ
た。こうした情勢に不満をもつた
義朝は、信西の敵対者藤原信賴と
結び、信西・清盛派の討滅を企て
た。平治元年(一一五九)十二月九
日夜半、義朝らは、清盛が熊野参
詣に出かけた留守をついて上皇御
所三条殿を襲撃し、後白河上皇と
二条天皇を内裏に幽閉し、信西を
自殺させた。しかし十六日夜半に
帰京した清盛は、上皇・天皇の尊
回に成功し、二十六日、勅命を奉
じて弟頼盛・長子重盛らを遣して
義朝らを攻撃した。両軍は六条河
原で合戦し、義朝軍は敗れ、義朝
らは近江に逃れたが、途中で延暦
寺の僧徒に襲撃され、次男朝長や
叔父の陸奥六郎義隆が討死した。

(中略) 義朝は東国に帰つて再起
を図ろうとして尾張国に至つたが、
永暦元年(一一六〇)正月四日長田
忠致に謀殺された。二月九日に義
朝の子頼朝も近江国で平頼盛の郎
等平宗清に捕えられたが、助命さ
れて三月十一日伊豆国に流された。
かくして義朝を中心とする源氏は
滅亡してしまひ、清盛を棟梁とする
平氏は、やがてその武力を基盤
として朝廷の高官を独占し、平氏
全盛時代を築き上げたのである。――

☆「平治物語」
『平治物語』は三巻からなる軍記
もので、鎌倉初期から中期に成立、

作者は不詳ですが『保元物語』と
同、作者ではないかともいわれ、
琵琶法師たちが琵琶の音に合わせ
て語つたもので、平治の乱を明快
な和漢混交文で描いた叙事物語と
なっています。

☆陸奥六郎義隆
平治の乱で討死した義朝の叔父
の陸奥六郎義隆は、源義家の六男
で、諸系図に「森冠者」と記され、
『平治物語』に「陸奥六郎義隆は、
相模の毛利を知行せられければ、
毛利の冠者とも申けり」とありま
す。

荻野郷は毛利荘に含まれますの
で、荻野四郎忠義は陸奥六郎義隆
が領有する毛利荘の一部の荻野郷
の在地領主職だったのでしょうか。
ちなみに、荻野神社や荻野小学
校の西側(荻野川側)に「六郎屋」
の小さな名があり、このあたりに陸
奥六郎義隆の屋敷があつたとの伝
えがあります。

☆季光はなぜ建立したか
上の写真の用田神社の石祠に造
営者としてその名を遺す大江季光
は建保七年(一一二九)に出家して
「西阿」と称し、やがて現在の厚木
市域から津久井方面に開かれた荘
園・毛利庄の領有権を得て、自ら
の姓も「毛利」と改めます。陸奥六
郎義隆の旧領地を約半世紀後に引
継いだのです。さらに、建保七年
は四月十二日に改元して承久元年
になります。『保元物語』の成立も
そのころと推定されて、石祠造営
年は「元久」ではなく「承久」との当
紙の指摘(前号)とも符合します。

そこで当紙は、これらの物語に
触発された季光が、荻野郷に在し、
在郷を姓とした地域の先人・荻野
四郎忠義の居蹟を石祠にして後世
に遺したのだらうと考えました。